

大泊町で、「支え合いマップづくり」が必要だと思った理由は？

まずは、この町には高齢者の一人暮らしが多いことから、必要だと思ったね。「支え合いマップづくり」を通して、その高齢者の人が、この町でどのようなつながりを持っているのかを知りたかったことが一番の理由やね。

そして、この取り組みが七尾市では前例がないということだったので、一番に取り組みたいと思ったことも理由やね。この町では、朝市を行っていたり、いろいろな委員会を立ち上げて活動していたりするから、取り組みやすいのではないかと思っただね。

「支え合いマップづくり」を 作成後の感想は？

町会長をしても知らない情報がたくさんあったね。そして、予想以上に人と人がつながっているんだなと思っただね。例えば、あの婆ちゃんには、日ごろはどうしているのかなと思っただね、その話題を出したら、数人の人とつながっていたので、本当に安心したね。

そして、このマップがすごいなと思っただね、知っている情報をさらけ出すということやね。こんな田舎のところでだと、自分のことや人のことの情報を出さない雰囲気があるよね。けど、考え方を180度変えて、情報を出し

てみると、地域づくりを行う上で、重要なことがわかったね。

また、情報を出すことで課題が見つかったね。その課題とは、関係する住民と情報をどう共有させるかやね。マップづくりをやってみて、町の地域づくりにとって、一歩も二歩も前進したように思えるね。

「支え合いマップづくり」を どのように活かすのか？

昔は、行政におんぶに抱っこという時代があったけど、今の時代はそうじゃないよね。だから、地域のことは地域でという仕組みを確立したいね。大泊町の皆さんは、そのような自覚を持ってくれていると思うね。そんな町会だからこそ、このマップもいろいろな分野で活かされるんじゃないかな。防災マップも作ってあるので、防災の観点からも活かされるんじゃないかなと思うね。

そして、いろいろな課題が出たので、ほとんどの住民が参加する総会などに話をさせてもらって、情報共有を図りたいね。そして、役員の皆さんを中心に、課題解決するにはどうすればいいのかを考えていね。「支え合いマップ」を作った終わりには絶対にしてはいけないね。このマップを活かして、前へ進んでいかないとね。

くりモデル地区² 大泊町

支え合いを大切に！ 前へすすまなければ！

- ◆まとめ
- 「支え合いマップづくり」を通して、次の内容が見えてきた。
- ① 高齢者世帯が多い
 - ② 一人暮らしの高齢者世帯が増加
 - ③ 近所同士の行き来が多く、人々とのつながりが強い
 - ④ 高齢化が急速に進んでいる
 - ⑤ 空き家が多い
 - ⑥ 買い物や食事などが課題



大泊町町会長

柳浦 勝さん

「支え合いマップづくり」で期待することは?

七尾市の中で、南大呑地区を「支え合いマップづくり」のモデル地区にする話を聞き、まずは大泊町が先駆けて実施するということがだったので、期待しています。仕事では、障がい者をお世話する業務に携わっているので、興味がありましたね。

今回、「支え合いマップづくり」をしてみても、地域にある細かな情報を知ることが出来ましたね。例えば、あの人はこんな問題を抱えているということとは知っていても、あの人と誰がつながっているか、日常生活でどのように過ごしているとかまでは知らなかったですね。大泊町をよく知るキーパーソンの人たちと、じっくり話す機会がなかったため、私自身、本当にいい機会になり、参考になりましたね。

防災にも役立てられるのではないのでしょうか。最近、大泊町は、自主防災組織を立ち上げたばかりなので、これからの取り組みが重要になってきます。そこで、今回作成した「支え合いマップ」を活用して、大泊町の防災にも役立てられればと思います。

今後、「支え合いマップ」をどのように活かすのか。

今回、マップづくりをしたことで、大泊町の課題が見つかり、できること

からやってみようという話がありました。例えば、一人暮らしの高齢者の課題解決を考えるため、地域住民と福祉関係者とのケア会議。福祉関係者同士のケア会議はよくしますが、住民と一緒にするケア会議は、実施したことがないですね。木原先生からも「全国でも例がないのでは。七尾市からやってみては」という話をいただきました。全国で取り組んだことがないのであれば、やってみる価値はあるなと思います。どんな成果が生まれるかは、やってみないとわかりませんからね。ぜひ、時間を空けずに、すぐ取り組んでみたいですね。

これからの地域は、どんなまちが理想なのか?

たくさんの人たちが、木原先生の講演や、「支え合いマップづくり」に参加してくれました。これは、住民一人一人が何かせねばという意識を持っているからだと思います。

今後、この意識が地域の大きな力になるような気がしますね。今回は、いい機会になったなと思っただけじゃ、今までと同じ。人と人がつながる大きな力が生まれようとしています。次の一歩を踏み出したいですね。そういった姿勢が見えるまちが理想なのではないでしょうか。

支え合いマップづくり

これまで以上に、ふれあい、このマップを活かして、

◆課題が見つかり、行動へ：
人と人とのつながりが強い地域であるが、急速な高齢化や一人暮らしの高齢者世帯が多い。そこで、働いている若い世代を中心に、住民で作る「地域ケア会議」や介護サポートづくりなどを進める。そして、地域全体で高齢者の見守りを強化する。



大泊町 民生委員
伊豆茂正さん